第22回 全国計量士大会のご案内

主催 一般社団法人日本計量振興協会

●日 時●

令和6年3月29日金13:30~18:40

●会 場●

仙台国際ホテル

〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央4-6-1

TEL: 022-268-1111

●趣 旨●

全国計量士大会は、当会計量士部会の企画立案のもと、計量制度の動向や技術革新に関わる最新情報を提供するとともに、参加者相互の情報交換の場を設け計量士の職域拡大と力量の向上を支援することを目的としています。

今年度は、多くの計量士から要望が強かった、東北地区仙台市において開催します。杜の都、仙台は、ゆったりと、たおやかな時が流れる風光明媚な観光地を控え、歴史の街・学園都市としても広く知られています。この機会に一度訪れてみませんか。

本大会のメインテーマは、【計量業務の効率化と拡大】です。

これからの計量士は、法定の計量管理業務はもとより、時代の要請に応え得る計量業務の効率化を進め、計量に関する国際規格に対応した、広義の"計量管理"も取り入れつつ、自主計量管理の推進、加えて新たな業務範囲となる自動はかり等指定検定機関での活躍へと業務の拡大を目指し計量業務を魅力あるものへと転換していくことが求められています。

発表は、検査業務をシステム化して効率化に繋げる事例、国際規格を活かした"計量管理"の取り組み、 及び指定検定機関と計量士の役割について、3名の計量士が行います。

こうした最新情報を共有し参加者の皆様と意見交換を行い、ご一緒に考えていきます。

従来同様に多くの計量士の方々にご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

大会プログラム

■主催者挨拶 一般社団法人日本計量振興協会 会長 鍋 島 孝

■**来賓挨拶** 経済産業省計量行政室 室長 仁 科 孝 幸 氏

■**状況報告** 一般社団法人日本計量振興協会の計量士関係事業の取り組み状況

専務理事 宮沢 敬 治

■意見交換

○メインテーマ 「計量業務の効率化と拡大」

コーディネータ:一般社団法人計量計測技術センター主幹 堀 田 圭 一氏

- ○発表者・意見交換
 - (1)「業務の効率化に向けて~計量システムの活用と課題~」

一般社団法人宮城県計量協会 計量士 水 上 大 輔 氏

(2) 「国際規格を活かした"計量管理"の取り組み」

一般社団法人茨城県計量協会 計量士 根 田 和 朗 氏 有限会社三協インターナショナル 生産部 部長

(3)「指定検定機関と計量士の役割」

東京計量士会 計量士

山本浩之氏

触

日本自動はかり検定株式会社 代表取締役

□ 事前意見の募集

※進行の都合上、大会で意見を提案されたい方は、事前に意見を募集しますので提案下さい。いただいたご意見は事務局で集約し、大会運営及び今後の資料として活用させていただきます。様式は問いません。ご氏名・連絡先明記の上、メール・FAXで3月4日(月)までに下記申込 先までお寄せください。

会場案内図



交通アクセス

- ・IR東北新幹線「仙台駅」下車5分
- ・仙台空港から「仙台駅」間25分から30分 1時間に3本運行(20分間隔)

出典:ホテルHP

■申し込み方法

申込書にご記入の上、3月4日(月)までにe-mail、FAX等 によりお申し込み下さい。

※会場の都合により150名で締め切りとさせていただき ます。

■申込先

一般社団法人日本計量振興協会 推進部 〒162-0837 東京都新宿区納戸町25-1 電話: 03-3268-4925 FAX: 03-3268-2553

E-mail: kb@nikkeishin.or.jp

■参加費

当会正会員所属計量士

6,000円

上記以外の方

10,000円

■振込先

○郵便振替 : 00110-3-3519

○りそな銀行 神楽坂支店(普) 1359914

口座名義:シャ) ニホンケイリョウシンコウキョウカイ

一般社団法人日本計量振興協会 計量士部会 委員(敬称略・地区別)

部会長 金井 一榮 埼玉県計量協会 関東甲信越 関東甲信越 副部会長 桑山 重光 東京計量士会 堀田 圭一 計量計測技術センター 東北・北海道 委員 委員 松山 辰夫 愛知県計量連合会 中部 委員 吉川 勲 京都府計量協会 近畿 万福 良秋 大阪計量士会 近畿 委員 中国・四国 委員 香山 泰弘 島根県計量協会

繁 福岡県計量協会

第22回 全国計量士大会 参加申込書

委員

末﨑

2024年3月29日 開催

九州・沖縄

ふりがな		お手数ですが下欄該当に○印をお付け下さい	
氏 名		1. 計量士	1. 第1種正会員に所属 2. 第2種正会員に所属
所属団体名		2. 計量士以外	3. その他
山库水准如件	71.		TEL ()
出席者連絡先	e-mail:		FAX ()

- ※ご記入いただいた個人情報は、本計量士大会運営に必要な事務手続き以外には使用いたしません。
- *参加票は、【出席者連絡先】にメールで配信します。参加時に会場受付で名簿のチェックをお願いいたします。
- ※第22回 全国計量士大会へのご意見ご要望を受け付けています。いただいたご意見は事務局で集約し、大会運営及び今後の資料 として活用させていただきます。様式は問いません。ご氏名明記の上、E-mail、FAXにより、2024年3月4日例までに上記申込 先までお寄せください。

第22回 全国計量士大会 発表概要版

発表1 「業務の効率化に向けて ~ 計量システムの活用と課題 ~ 」 発表者 水上 大輔 計量士 所 属 一般社団法人宮城県計量協会

◆キーワード:「デジタル」、「効率化」、「拡大」、「計量システム」

◆概要

昨今、ペーパーレス化が叫ばれデジタル化が進む時代に、検査は未だアナログの環境で実施している状況のなか、現場で書き起こした書類を事務所で登録をすることなく、現場において完結するようにシステムを構築した。

データがクラウドにあり、いつでも情報が手元に来る時代にどうマッチング出来るかを模索し"時間があれば"から"時間を作る"時代にしたい。

作った時間をどう生かせるか、業務の幅を増やし、いかに効率的に仕事をこなせるか世間で言うDX化を推進していく、計量システム開発の現状を発表する。

発表 2 「 国際規格を活かした"計量管理"の取り組み 」 発表者 根田 和朗 計量士 所 属 一般社団法人茨城県計量協会 (有限会社三協インターナショナル 生産部 部長)

◆キーワード:「OIML」、「不確かさ」、「トレーサビリティ」、「ISO/IEC 17025」 「人材育成」

◆概要

計量士が担う主たる業務は、言うまでもなく『計量管理』であり法第 109 条で明確に規定されているが、2017 年 6 月の施行令改正により自動はかりが法規制の対象に追加され、高度な専門知識及び技術力が非常に重要となっている。

「管理」にフォーカスすると、適正な計量管理の実現を主目的とする適正管理事業所制度と計測管理の確立を主目的とした ISO/JIS Q 10012 とで差異はあるが、計量管理の信頼性向上の観点から有効な規格と考えられる。

このような背景から計量業務を効率的に実施するためには、国際規格との調和とともに国内事情を考慮した計量システムを構築すべきであると考える。

発表3 「指定検定機関と計量士の役割」

発表者 山本 浩之 計量士 所 属 東京計量士会

(全国自動はかり検定協会 代表取締役)

◆キーワード:「指定検定機関状況」、「自動捕捉式はかり市場台数」、「計量士との 連携」、「現場での検定の進め方」

◆概要

指定検定機関 指定状況を説明し、全国での自動捕捉式はかりの市場台数を提示、その中でひょう量が 5kg 以下になったことへの影響を説明する。

現状の指定検定機関だけでは、市場台数に対応出来ない状況があることへの懸念から、全国各地区計量士・計量協会との連携を含め、制度が混乱なきよう的確な運用と認められるには関係者相互の協力が欠かせないことを提案したい。

現場での検定の進め方について、様々な取り組みに関して、これまでの経験も踏まえて説明する。今後も皆様のご意見を頂きながら改善に努め、本制度がしっかりと周知され、そして根付くように、進めて行きたい。

以上